



③



①



②

有形文化財（工芸品）

もくぞうじぞうぼさつけぼとけ

4 2. 木造地蔵菩薩懸仏 3面

■指定年月日 昭和63年3月18日(1988)

■所在地 上戸町寺社 2-62

■所有者 上戸気多神社

■寸法 ①径42.2cm 面厚2.0cm

②径42.0cm 面厚2.2cm

③径48.0cm 面厚2.7cm

①②は、檜ひのき一材の鏡板中央下寄りに蓮華座れんげに座る地蔵菩薩を3cm厚ほど浮き彫りにし、鏡板周囲に薄く縁周りを彫り出す。③は檜材の鏡板に、蓮弁の頭光と縁周りを薄肉で彫り出し、厚さ5cmの蓮華座に座る地蔵菩薩を中央に貼り付ける。別材の両手を失っている。いずれも、後世に黒く塗られたとみられる。鎌倉から室町前期に製作されたものとみられ、中世の数少ない木彫り懸仏が、同所に3面も残されているのは、能登における垂迹すいじやく信仰史を知る上で貴重なものである。

懸仏は本来御正躰みしょうたいと呼ばれていたもので、平安期の本地垂迹説に従い、垂迹神を表す鏡と、本地仏を組み合わせたものである。鏡に本地仏を線刻

した鏡像から、尊像が立体化し、懸仏へと発達した。上戸気多神社の祭神は、能登一宮気多大社の分神とされ、『能登名跡志』によると、能登一宮の祭神は、本社大己貴命おおなむちのみこと、奥社素戔鳴命すさのおのみこと・稲田姫いなだひめとする。大己貴命の本地は將軍地蔵であることから、この懸仏は、その3神であろう。